令和６年度開講「演習」仮シラバス

【日本文学演習】

科目名		担当者	曜日	時限
上代	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	土佐　秀里	木	5
	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	谷口　雅博	木	5
	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	上野　誠	火	3
中古	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	太田　敦子	木	4
	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	塚原　明弘	木	6
	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	竹内　正彦	金	6
	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	津島　知明	月	3
中世	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	荒木　優也	火	3
	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	荒木　優也	木	6
	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	野中　哲照	火	6
近世	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	岩崎　雅彦	火	6
	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	中村　正明	火	3
	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	中村　正明	木	6
	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	藤川　雅恵	水	4
近代	日本文学演習ⅡA・ⅡB★ 日本文学演習ⅢA・ⅢB★	石川　則夫	月	3
	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	安西　晋二	金	5
近現代	日本文学演習ⅡA・ⅡB★ 日本文学演習ⅢA・ⅢB★	安西　晋二	金	6
	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	鬼頭　七美	月	2

	日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	岡崎　直也	月	4

※★印の科目は、原則として卒業論文履修者が履修することができる。

※曜日・時限は予定ですので、変更になる場合があります。

【上代文学】

【科目名】日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	【曜日】木曜 【時限】5限
【教員名】土佐　秀里	
【テーマ】万葉集の物語性と歴史性	
（演習内容） この演習は『万葉集』を研究するものですが、日本文学演習Ⅰの古典分野（上代・中古・中世・近世）を履修していることが前提になっています。また編入生の場合は、短大等で万葉集または上代文学に関する演習・講義を履修していることを必須とします。毎年途中で脱落する編入生が多いので、この点は特に注意してください。この演習Ⅱは、日本文学科の３年生として当然備えているべき文学史的知識と古典文法の知識が、十分に備わっていることを前提に開講しています。その前提が欠けている人は、まずは「演習Ⅰ」を履修してから、この演習Ⅱに進んでいただきたいと思います。 　この演習の大きなテーマは、①万葉集の歌を、物語を読むようにして読む、②万葉集の歌の歴史的背景を考えて読む、というものですが、演習発表そのものは、それぞれの発表者が個別に具体的なテーマを設定し、それに見合った具体的な作品を精読してゆくことになります。個別のテーマ設定と作品選択についてはいくらでもアドバイスしますが、「作品を読む」という要素がないものは発表として認められません。また、その読み方が既存の注釈書等に頼っただけの「浅い」ものであれば、評価はできません。最初の授業でこの演習の方針を示しますので、その趣旨を十分に理解して発表を行ってください。	
（評価方法） ①最初の授業に出席し、演習の趣旨を理解していること。②日本文学科３年として持っていなくてはならない文法知識や文学史知識が備わっていること。③概説や理論ではなく、具体的な作品を考察の対象とし、その分析を行っていること。④発表資料の密度と分量が一定以上であること。内容のない水増しはマイナス評価となる。⑤他人の受け売りではない、自分なりの着眼点や考え方が示されていること。⑥質疑応答に対し、その場で考え、答えること。⑦「文学」であることの意味と、その面白さについて十分に考えていること。以上の七項目の観点から、発表資料・発表内容・質疑応答を総合的に評価する。	

【科目名】日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	【曜日】木曜 【時限】5限
【教員名】谷口　雅博	
【テーマ】上代の神話・説話を読む	
（演習内容） 『古事記』（中・下巻）、「風土記」等に記載された神話・説話を対象とし、学生の発表を中心に据えて授業を行う。本文の的確な読みを検討した上で、古代的な論理・信仰・習俗などの背景について考えつつ、新たな読みを模索していく。 上代の文献には本文・訓読に問題のある箇所が多く、また解釈も定まっていない話が多い。	

まずは本文批判を徹底し、その上で各神話・説話の検討を行う必要がある。従って、本文などを確定する一回目と、内容を検討する二回目とに分けて発表を義務付けることになる。
（評価方法） 発表資料・発表内容・質疑応答　　50% 学年末リポート　　50%

【科目名】日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	【曜日】火曜 【時限】3 限
【教員名】上野　誠	
【テーマ】『万葉集』の風土論的研究	
（演習内容） 『万葉集』の歌々の表現が、風土とどのように結びついているのか、結びついていないのか、具体的に考えてゆきます。明日香とはどんなところなのか、平城京は都としてどのように表現されているのか、吉野の離宮はどういう構造を持っていたのか。そういった諸問題を具体的に考えてゆきます。いわば万葉小旅行のようなかたちをとりながら、風土と文学の関係を考える授業となるはずです。歴史学、考古学、民俗学などの知識を動員して考察を進めてゆきます。本年度は、巻 6、7、8、9 を中心にします。卒業論文を提出する人は、できるだけこの演習を履修するようにしてください。必ずプラスになるはずです。	
（評価方法） 授業での取り組みを重視し、発表も加味して評価をします。学習への取り組みも大切なのですが、学習を楽しむ心が必要だと私は考えています。 研究小レポート 50%、授業での取り組み（質疑応答、参画、授業時提出物）50%	

【中古文学】

【科目名】日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	【曜日】木曜 【時限】4 限
【教員名】太田　敦子	
【テーマ】『源氏物語』「若菜下」巻を読む	
（演習内容） 『源氏物語』「若菜下」巻の輪読を行い、研究方法の修得と作品の理解を目指します。発表担当者は、担当する場面の諸注釈整理・鑑賞・考察に基づいた現代語訳を発表し、質疑応答に臨みます。『源氏物語』第二部世界の読解には、第一部・第三部世界の理解が欠かせないため、物語全体を意識しながら第二部世界「若菜下」巻を輪読します。	
（評価方法） 口頭発表（60%）、口頭発表に基づくレポート（20%）、積極的な授業への参加態度（20%）	

【科目名】日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	【曜日】木曜 【時限】6 限
【教員名】塚原　明弘	
【テーマ】『源氏物語』「玉鬘」巻を読む	
（演習内容） 受講者の発表と質疑、教員の講評により、『源氏物語』を読み進めていく。今年は、「玉鬘」巻、初瀬詣でから進める。１人、年２回程度の発表を課す予定。求める内容は、音読・現代語訳・諸注による解釈の問題点・研究鑑賞。自分で感じ、考え、調べたことを出発点にして、作品を深く味わい洞察する力を身につける。	
（評価方法） 出席 30%・発表 35%・年末のレポート 35%による。年末のレポートは、発表で扱った内容を発展させてまとめるのが理想。	

【科目名】日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	【曜日】金曜 【時限】6 限
【教員名】竹内　正彦	
【テーマ】『源氏物語』「澪標」巻を読む	
（演習内容） 『源氏物語』「澪標」巻を対象として輪読を行う。発表担当者が担当範囲について、諸本の異同、諸注釈、現代語訳、調査・研究といった項目にわたって資料を使いながら発表し、その後、受講者相互の討議を行うことによって、『源氏物語』を読み深めるとともにその研究方法を学んでいく。口頭発表は各学期にそれぞれ１回を予定。各学期末にはレポートを課す。『源氏物語』は、調べれば調べるほど、奥深い世界を見せてくれる。受講生の積極的な取り組みが期待される。	

（評価方法）
発表資料・発表内容６０％　レポート２０％　授業への取り組み状況２０％

【科目名】日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	【曜日】月曜 【時限】3 限
【教員名】津島　知明	
【テーマ】『枕草子』を読み味わう	
（演習内容） 『枕草子』の様々な章段を読みながら、その魅力を味わっていきます。 担当範囲を割り当て、調べてきた結果を口頭発表してもらいます。質疑応答を経て、さらに各自で問題点を深めてもらいます。	
（評価方法） 平常点 100% 発表内容およびコメントの提出状況で評価します。	

【中世文学】

【科目名】日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	【曜日】火曜 【時限】3 限
【教員名】荒木　優也	
【テーマ】『古今和歌集』を読む	
（演習内容） 平安時代前期に成立した『古今和歌集』は、勅撰和歌集の最初であり、以後の日本文化の規範の一つを作り上げた歌集である。本演習では、小野小町・在原業平・僧正遍昭ら六歌仙、紀貫之・紀友則ら『古今集』撰者の和歌を中心に取り上げ、『万葉集』の歌などの先行する表現も視野に入れつつ、考察を進める。また、『新古今集』などの後世の和歌との関係についても考えていく。 履修者は、前期・後期にそれぞれ指定される和歌の発表を必ず担当し、『新編国歌大観』を用いながら歌語の解釈、歌の考察を行う。そして、前期・後期の学期末に、それら発表をまとめ直したレポートを提出することを義務とする。 また、和歌を研究するには多くの知識が必要となるため、「日本時代文学史Ⅰ」（木 5 荒木担当）の受講もお願いしたい。 なお、卒業論文指導教員として荒木に選ぶ可能性のある者は、履修することが望ましい。 教科書は、『古今和歌集』（ちくま学芸文庫）を用いる予定である。	
（評価方法） 発表資料・発表内容 40% 授業参加（質疑応答）30% 学期末レポート 30%	

【科目名】日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	【曜日】木曜 【時限】6 限
【教員名】荒木　優也	
【テーマ】『後拾遺和歌集』の和泉式部の和歌を読む	
（演習内容） 80 年ぶりに編まれた勅撰集『後拾遺和歌集』には、一条朝の歌人たちの歌が多く収載されている。そのなかでも目を引くのが、和泉式部詠が 67 首も入集していることである。 本演習では、和泉式部の歌に焦点をあて、古典和歌の理解、研究方法の獲得をめざす。また、王朝和歌から中世和歌への結節点のひとつとして、和泉式部の和歌を考えたい。 履修者は、前期・後期にそれぞれ指定される和歌の発表を必ず担当し、『新編国歌大観』を用いながら歌語の解釈、歌の考察を行う。そして、前期・後期の学期末に、それら発表をまとめ直したレポートを提出することを義務とする。 また、和歌を研究するには多くの知識が必要となるため、「日本時代文学史Ⅰ」（木 5 荒木担当）の受講もお願いしたい。 なお、卒業論文指導教員として荒木に選ぶ可能性のある者は、履修することが望ましい。 教科書は、『後拾遺和歌集』（岩波文庫）を用いる予定である。	
（評価方法）	

発表資料・発表内容 40% 授業参加（質疑応答）30% 学期末レポート 30%

【科目名】日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	【曜日】火曜 【時限】6 限
【教員名】野中　哲照	
【テーマ】中世散文の研究	
（演習内容） 中世散文の領域で、学生各自がテーマを持ち、それについてとことん調べ、読みこんで深く掘り下げて、研究発表をします。説話の人、軍記の人、日記・紀行の人、随筆の人など。作品ではなく、古典世界の文化論、時代社会論でも構いません。中学校・高校の頃、「自分の好きなことを研究したい」と思っていませんでしたか？　今こそ、それを実現しましょう。ここでの発表に、決まった「型」もありません。 卒論の中間報告をしても構いませんし、卒論の研究余滴（脱線編、スピンオフ）でもよいです。中世散文の中から自由にテーマを選び、いわゆる〝学術的な方法〟にこだわらず、説得力だけをめざして研究発表してみてください（説得するための「方法」も、自分で考えるということです）。 この授業で目指すのは、学生の主体性と問題解決能力の獲得です。そのために、既存の方法に沿おうとするのではなく、自分の問題意識に沿って何かを深めてみましょう。	
（評価方法） 平常点（出席点、授業時の質疑応答や研究発表） 定期試験は行いません。	

【近世文学】

【科目名】日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	【曜日】火曜 【時限】6 限
【教員名】岩崎　雅彦	
【テーマ】浄瑠璃の研究	
（演習内容） 浄瑠璃の作品『酒呑童子出生記（しゅてんどうじしゅっしょうき)』を扱う。浄瑠璃は近世に新しく生まれた語り物で、三味線の演奏とともに語られた。 　『酒呑童子出生記』は、室町時代の御伽草子『大江山絵巻』『酒呑童子』などをもとに、新たに創作を加えて作られた作品である。 授業は個人発表の形で、本文の注釈と現代語訳および考察を行う。	
（評価方法） 各回の発表の内容、および期末リポートで評価する。欠席は原則として認めない。	

【科目名】日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	【曜日】火曜 【時限】3 限
【教員名】中村　正明	
【テーマ】洒落本を読み解く　―江戸の遊廓文化と文学―	
（演習内容） 洒落本は、江戸時代中期から後期にかけて刊行された江戸戯作の一ジャンルで、遊里・遊廓を中心とした世相風俗を描く、通人性に満ちた読み物である。その当世風俗・文化への「うがち」はきわめて写実的かつ滑稽で、江戸独自の遊廓文化と江戸の人々をいきいきと描き出すものである。 本演習は、そうした江戸の時代層を正しく読解するとともに、近世的文学表現を把握・考察するものである。そのことが洒落本の理解のみならず、深く江戸文学理解へと結びつくことになろう。会話体洒落本の先駆けである田舎老人多田爺作『遊子方言』（明和七年刊）ほか、代表的な洒落本作品を数作品読んでいく。 近世文学で卒業論文を執筆する学生、執筆しようと考えている学生は、特に本演習を履修するようにして下さい。	
（評価方法） 演習発表 60%、授業参加（質疑応答）30%、レポート 10%。	

【科目名】日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	【曜日】木曜 【時限】6 限
【教員名】中村　正明	
【テーマ】明治初期文学を読み解く　―毒婦小説『(「)鳥追阿松海上新話(とりおひおまつかいじやうしんわ)』―	
（演習内容）	

本演習で扱う明治初期文学というのは、明治初年代から十年代を指す。近世から近代文学への移行期に当たるこの時期の文学は、政治の鳴動と社会・文化・思想の劇的変化を直接的に反映するものが多い。
本演習では、明治初期のピカレスクロマンの先駆けともいうべき、久保田彦作『鳥追阿松海上新話』（明治十一年刊）を読む。本作は新聞記事をもとに文芸化された作品で、実在した鳥追お松という女性が、美貌を武器にして次々と男性を騙して逮捕された事件を題材にした実録的毒婦小説である。そこに見られる明治開化期の人間像や新時代の文化風俗が、文学作品としてどう描出されているか、丹念に拾い出して読解することを主眼とする。現代の犯罪ルポルタージュやピカレスクロマン（悪漢小説）に興味のある学生は、その淵源をここに探ることも可能であろう。
明治初期文学で卒業論文を執筆する学生、執筆しようと考えている学生は、特に本演習を履修するようにして下さい。

（評価方法）
演習発表 60%、授業参加（質疑応答）30%、レポート 10%。

【科目名】日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	【曜日】水曜 【時限】4 限
【教員名】藤川　雅恵	
【テーマ】『西鶴諸国はなし』を読む	

（演習内容）
この授業では、浮世草子の奇談集『西鶴諸国はなし』（井原西鶴作）の輪読を行います。各自の担当箇所について、注釈と現代語訳を行い、特に興味を持った事項について詳しく調査したことを発表してもらいます。また、発表の内容をもとに、発表者にたいする質疑応答も行います。教員からの問題提起もありますので、発表者のみならず、それ以外の皆さんにも回答して話し合ってもらいます。これらの作業によって、一話の構造や主題などを導き出すことをこの授業の第一の目標とします。各学期末には、これらの結果をまとめたレポートを作成し、提出してもらいます。
　この作品は『好色一代男』を書いたことで有名な西鶴が、「人はばけもの」というキーワードを駆使して、様々な怪異や不思議な現象に果敢に挑んだ短編集です。仙人・隠れ里・竜宮・幽霊・狐狸・都市伝説などが、ファンタジックな物語として登場します。これらのような周知のようで詳しくはわからないことについて、基本的に理解し、作者西鶴がどれほどトリッキーに解釈して作品化したのかを検証してもらう予定です。また、作品には中国の怪談や日本の古典文学を基にした話、名所の紹介など、怪異以外の魅力的な要素もたくさん含まれています。これらを調査することで、江戸時代の文化の様相についての新たな知見を得て楽しんでもらうことも、この授業のもう一つの目標です。

（評価方法）
発表（60%）、学期末レポート（20%）、通常の授業での問題提起に対する回答と他の発表者の発表内容の理解度（20%）を併せて、総合的に評価します。

【近代文学】

【科目名】日本文学演習ⅡA・ⅡB★ 日本文学演習ⅢA・ⅢB★	【曜日】月曜 【時限】3 限
【教員名】石川　則夫	
【テーマ】近現代文学の卒論演習（石川指導の 4 年生）	
（演習内容） A 前期は、各自の先行研究史の紹介と批判検討を発表して、質疑応答を行う。 B 後期は、各自の卒業論文の本論の途中経過報告を発表し、質疑応答を行う。	
（評価方法） A・B それぞれ、個人発表３０％、質疑応答２０％、レポート５０％。 卒業論文の評価はこの演習とは別である。演習としてのレポートは、A 前期は先行研究史としてまとめる。B 後期は、3 年生から取り組んできた卒業論文の作成過程を振り返り、今後の課題点をまとめる。	

【科目名】日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	【曜日】金曜 【時限】5 限
【教員名】安西　晋二	
【テーマ】戦後以降の現代小説を読む	
（演習内容） 1945 年以降（昭和後期）の文学作品を読解し、その特徴と研究方法を学ぶ授業となる。多様化していく時代状況のなかで、文学作品がどのようにしてそれを背景としながら描かれているかを検討したい。本演習では、1945 年前後～1970 年代の短篇小説を対象とする。前期は、石川淳「焼跡のイエス」、安岡章太郎「ジングルベル」、三島由紀夫「卵」、安部公房「棒」、大江健三郎「奇妙な仕事」を、後期は、倉橋由美子「パルタイ」、有吉佐和子「亀遊の死」、佐多稲子「水」、金井美恵子「兎」、林京子「ギヤマン　ビードロ」を取り上げる予定である（履修者の状況等により変更の可能性もある）。 作品ごとにグループを作り、発表に臨んでもらう。発表は、1 週目に先行研究の整理・批評および注釈（ことばや時代背景への理解）、2 週目に作品自体に対するグループの見解という展開で実施する。そのうえで、それぞれの発表内容に対し質疑応答を行う。	
（評価方法） 前期・後期ともに、個人発表のほか、その発表内容（質疑応答含む）をふまえたレポートを作成し、提出してもらう。 口頭発表・質疑応答等 70%、レポート 30%	

【近現代文学】

【科目名】日本文学演習ⅡA・ⅡB★ 日本文学演習ⅢA・ⅢB★	【曜日】金曜 【時限】6 限
【教員名】安西　晋二	
【テーマ】近現代文学の作品研究	
（演習内容） 原則として、安西晋二を指導教員とする卒業論文履修者（4 年生）を対象とする。前期は、各自の卒業論文対象作品の先行研究について整理し、それについての批評を発表する。後期は、卒業論文本論に当たる、対象作品の研究発表を行う。卒業論文の途中経過報告という形になるだろうが、自身がどういう見解を論述するのか、他者にそれが伝わる準備をしておくこと。	
（評価方法） 前期・後期ともに、個人発表のほか、その発表内容（質疑応答含む）をふまえたレポートを作成し、提出してもらう。 口頭発表・質疑応答等 70%、レポート 30%	

【科目名】日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	【曜日】月曜 【時限】2 限
【教員名】鬼頭　七美	
【テーマ】明治文学のヒロインを読む	
（演習内容） 明治期においては、エンターテインメントとして受容された文学作品が多方面に花開いた。そのうち、ヒロインが数奇な運命をたどる小説に照明をあて、精読を試みる。作品としては、永井荷風『地獄の花』、菊地幽芳『乳姉妹』、夏目漱石『虞美人草』、『草枕』を取り上げる予定である。それぞれ、作品が発表された時代背景（明治 30～40 年代）、発表メディア（主に新聞）、作家の特徴（新聞記者、文学者等）などに留意しながら、これらの中長編の持つ味わい深さを堪能したい。一つの作品を分割して担当、履修者による発表と討議により精読を進め、作品に対する理解を深める。	
（評価方法） 演習発表、出席、授業中の発言（回数、内容など）、期末レポートなどにより、総合的に判断する。	

【科目名】日本文学演習ⅡA・ⅡB 日本文学演習ⅢA・ⅢB	【曜日】月曜 【時限】4 限
【教員名】岡崎　直也	
【テーマ】堀 辰雄の文学	
（演習内容） 堀辰雄は、非人称の客観的視点で各作中人物の深層心理を明晰に分析する「聖家族」で主語	

なし日本語構文の特徴を生かし、固定するはずの視点を〈婉曲表現〉の多用で各作中人物の傍らに寄り添わせつつ経験の切実さを掬い上げた。
しかし堀は、叙述による小説の全知的な統御への不信から『美しい村』『風立ちぬ』において、小説を書く行為自体を一人称で小説に書く、いわゆる〈小説の小説〉の試みを繰り返す。主人公〈私〉の生が、同一人物である小説家〈私〉によって表現され、また逆に、その小説家〈私〉の創作行為が同一人物である主人公〈私〉によって生きられる、といった互いを問い直す円環を仕組み、小説家が向き合う現実と、それから創りあげようとする世界との相剋を丹念に追究したのであった。
その後、多人物が交渉する〈ロマン〉を書くべく堀は「菜穂子」で非人称の客観的視点を再び採用するが、心理分析を排し、場面ごとに異なる作中人物に寄り添った心理や無意識の描写と、汎神論的な自然描写とによって、叙述の全知的な統御を慎重に避ける。モダニズム文学の推進者であった堀は、一方で古人の生活に学びながら王朝小説を書きつぎ、自然描写と照応する身体感覚によって〈生〉を実感する「曠野」を執筆した。主人公の女の心理は、叙述による断定とそこから幽かに逸れる内心の吐露とのあいだを揺らぐままに提示されている。
作品ごとに発表グループを作り、本文批評・注釈・研究史・鑑賞などの整理をもとに順次発表させ、提起された問題点について教員・学生相互の活発な質疑応答を図りたい。

（評価方法）
平常点 60%〔発表・授業時小レポート・質疑応答〕、単位レポート 40%